

（鳥取県）令和6年度発達障害児者地域生活支援モデル事業報告会

本県では、在宅の強度行動障がい児者に係る支援体制構築事業を実施。スキームは以下のとおり。

支援協議会

県（障がい福祉課・
子ども発達支援課）

自閉症協会

（役割）

各圏域での取組の共有や、全体調整等を担う。
年2，3回程度開催。

本事業における県の取組

- ▶ 支援協議会の枠組み構築
- ▶ エールに専任の会計年度職員2名配置
- ▶ 支援事業者へのアウトリーチ支援の経費補助
- ▶ 指導者へのアドバイザー対応の謝金
- ▶ 法定サービスの手前の支援（体験利用等）の経費補助
- ▶ 専門研修の受講支援（受講奨励金）

支援ワーキンググループ（WG）（役割）

県発達障がい者
支援センター

市町村

基幹相談

特別支援学校

専門家

入所施設等

※必要に応じて

個別ケースにおける支援状況の確認、在宅支援の調整、
将来的なサービス利用に向けた調整等を担う。
月1回程度開催（対象者ごと）。

対象者・家族への支援

支援事業者

指導者（例：厚生事業団）

支援に同行・アドバイスを実施

在宅に入り、環境調整を実施

対象者・家族

（鳥取県）令和6年度発達障害児者地域生活支援モデル事業報告会

支援対象としている16ケースの概要は以下のとおり。左端に▶のマークがついているケースは、毎月開催している「支援ワーキンググループ」内で支援の進捗状況や支援方針について検討している事例。反対に、マークがついていないものは行動障がいが軽減、あるいは状態像の定点観測＋再燃時の対応としているケースです。

市町村 (▶ = 稼働ケース)	性別／年代 (◎ = 学生)	主な課題行動	20年	21年	22年	23年	24年	25年	現在の 居所
東部①（八頭町）	男／30代	■器物破損 ■他害	8月						自宅
東部②（八頭町）	男／20代	■拘り行動 ■無届外出		6月					自宅
東部③（鳥取市）	男／30代	■他害 ■器物破損 ■迷惑行為			8月				GH
▶ 東部④（鳥取市）	男／30代	■放尿 ■外出・通院できない					5月		自宅
▶ 東部⑤（鳥取市）	男／10代◎	■陰部出し ■過食 ■夜間の騒音					5月		自宅
東部⑥（鳥取市）	女／10代◎	■父親へのちょっかい					5月		自宅
▶ 中部①（倉吉市）	男／20代	■昼夜逆転 ■大声・奇声	8月						自宅
▶ 中部②（三朝町）	男／20代	■昼夜逆転 ■拘り行動		3月					自宅
中部③（倉吉市）	男／20代	■学校送迎の車から降りられない		10月					入所施設
▶ 西部①（米子市）	男／30代	■破衣行為 ■他害 ■器物破損	8月						自宅
▶ 西部②（米子市）	女／20代	■他害 ■拘り行動	12月						自宅
▶ 西部③（境港市）	男／20代	■自傷 ■他害		8月					自宅
▶ 西部④（米子市）	男／20代	■暴言 ■他害 ■確認行動			8月				GH
▶ 西部⑤（境港市）	男／20代	■器物破損 ■自傷 ■無届外出			10月				GH
▶ 西部⑥（米子市）	女／30代	■自傷 ■大声・奇声					5月		自宅
西部⑦（境港市）	男／30代	■自傷 ■拘り行動					5月		自宅

(鳥取県) 令和6年度発達障害児者地域生活支援モデル事業報告会

【現在の状況】

- 16ケースの対応方法を整理すると以下の通り（④が定点観測ケース）。

対応方法	東部						中部			西部						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
① 定期的な事業所訪問を主軸とし、対面での助言／モデルを行う										●			●		●	
② ご家族への面談を主軸とし、保護者支援と事業所への助言を行う				●			●	●					●		●	
③ 相談支援専門員との連携を主軸とし、相談経由で事業所へ助言を行う					●						●					
④ 2-3か月に1回、利用事業所管理者や相談支援専門員から状況を伺う	●	●	●			●			●							●

※すべてのケースで相談支援専門員と情報を共有。また、年2回BPI-S調査を行い、数値上での状態評価を実施

- 「集中的な対応」から「定点観測」に移行したケースの共通点
 - ➔ 対象者の知的障がいの程度が、中-重度
 - ➔ 居所の変更や事業所変更、支援者の意識変更など、課題行動を起こさなくてよい生活環境へ